

寛政十二年三月十一日

卯城所書

ら何

法眼

すりまきふ

る迄

卯城所書

耕とらみの白こ

内大臣殿

あつらひの海原のぬきあぐ
まじいしわゆる弱いも
けしきありのつらやも
むし文江の波のそりし
うとみい月とほり多
おとが死つて了る人
ありし時
まてが平らの君の指し
かこけしおとす
さあてつら

玄昌綱昌信是通信昌
川宮奉永迄送経時

白

